

カンボジアを訪れて

筑波大学附属坂戸高等学校

Seiji 0.

4月、学校のお知らせで第9回高校生カンボジアスタディツアー（以下、「スタツア」）募集のことを知りました。カンボジアについては中学の社会の授業で習った程度の知識しかありませんでしたが、応募をきっかけにいろいろなことを調べていくうちに、1975年4月から1979年1月までのポル・ポト政権時代に引き起こされた「カンボジア大虐殺」のことを知り、今、自分が取り組んでいる「平和」についての関心事と合致したこともあり、今回のスタツアに応募しようと決意しました。応募者は90名以上だったと伺っていますが、その中の一人として選んでいただいたことを本当に感謝しています。限られた紙面での報告になりますが、今回のスタツアで体験したこと、感じたこと、今後に活かしたいことを報告させていただきます。

一日目（7月27日（日））

渡航前日、私たち10名は成田空港近くのホテルマイステイズプレミア成田で事前研修会を行いました。それぞれの関心をもとに調べてきたことをプレゼンし、意見交換をしました。私のプレゼンのテーマは「カンボジアと平和」で、ちょうど7月にパリで開かれた第47回世界遺産委員会でカンボジア大虐殺に関わる施設が世界文化遺産に登録されたことと絡めて、現地でこれからの平和についてどのような取り組みがなされているのか見聞きたいことを伝えました。

二日目（7月28日（月））

このニュースレターをお読みの方の多くは7月24日（木）に起こったカンボジアとタイとの国境付近での軍事衝突のことをご存知かと思います。私たちも渡航できるか心配していましたが、ちょうどこの日に無条件の停戦が合意されてホッとしたのを覚えています。ベトナム航空で、ホーチミン空港を経由してプノンペン空港へ向かいました。成田からホーチミンまでは約5時間半、ホーチミンからプノンペンまでは約1時間。成田のホテルを出発してプノンペンのホテルに着くまでは約15時間かかりましたが、人生初のカンボジアに行くことができることの喜びと期待で疲れはありませんでした。大きな道路にバイクやスクーター、トゥクトゥクがたくさん走っていて、「カンボジアに来たんだなー」と実感しました。



プレゼン後の意見交換の様子



プノンペン市内の様子



プノンペン滞在時のガイド・チャンヤさんと

三日目（7月29日（火））

今日からスタツアが本格的に開始です！在カンボジア日本国大使館、UNESCO プノンペン事務所、トゥール・スレン虐殺博物館を訪問しました。在カンボジア日本国大使館ではカンボジアの歴史や文化、政治や大使館の役割についてお話を伺い、UNESCO プノンペン事務所では「教育、科学、文化、情報コミュニケーション」の4部門の活動について説明していただきました。昼食をはさんで午後には訪問したトゥール・スレン虐殺博物館では、展示品や絵、ボードの説明によって当時の様子を知ることができますが、日本語音声ガイド（5ドル）がとても役立ちました。「S-21」と呼ばれていた収容所はもともと学校の校舎でした。子供たちの笑顔と笑い声が絶えない場所が、苦痛と悲鳴に満ちた場所になってしまったことに心を痛めました。

当時のカンボジアの人口は約 780 万人だったと言われていますが、そのうちの約4分の1にあたる150万～200万人の人たちが犠牲になったと言われています。右の人口ピラミットでは大虐殺の世代が極端に少ないことがわかります。

四日目（7月30日（水））

午前中に訪れたのは、ポル・ポト政権下で「反革命的な者」と見なされた知識人・伝統文化継承者・教師・宗教関係者等を殺害した刑場跡・キリング・フィールドです。日本語では「キリング・フィールド」と呼ばれますが、英語では「Killing Fields」と複数になっていることに気づきました（インターネットの情報では、カンボジア国内のキリング・フィールドは300以上あると書かれていました）。亡くなった方々を慰霊する塔に頭蓋骨がびっしりと積み重ねられていたこと、「キリング・ツリー」と呼ばれる木に小さな子供たちの頭が打ちつけられたことを知り、言葉を失いました。事前研修のプレゼンのために調べた情報では、発見された人骨には10代の少年少女たちのものも多く、そして、「処刑した看守も同年代だった」と言われている記事を読んで、衝撃を受けました。

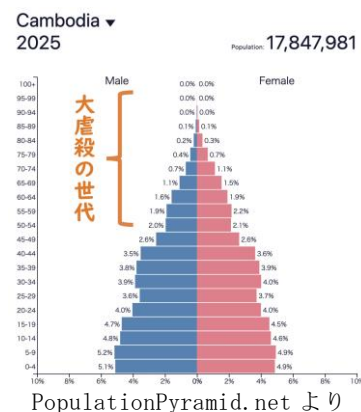
午後はアンコール遺跡群があるシェムリアップに向かってバスでの大移動（約6時間）です。ガイドのチャンヤさんと笑顔でお別れしました。



UNESCO プノンペン事務所での様子



トゥール・スレン虐殺博物館の外観



キリング・フィールドでの様子
慰霊塔（左）とキリング・ツリー（右）



全員集合！

五日目（7月31日（木））

シェムリアップ活動初日の午前中は、日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所への訪問でした。カンボジアの美味しいフルーツとお菓子でのおもてなしを受けました。（ランブータンを初めて食べました！）寺子屋で学ぶ生徒たちがそれまでどのような状況にあったのか、寺子屋で学ぶことになった後の生徒たちへの支援などのお話を伺うことができました。

午後は、今年度開校したばかりのチュブタトラウ寺子屋を訪問し、子供たちが受けている授業を見学しました。授業後には一緒に折り紙を折ったり、アクションゲームをしたりしました。その後、寺子屋に在籍しているカンハちゃん（13歳）の家を訪問し、家の様子や生活の状況を教えてもらいました。家庭訪問の後には大人の識字クラスを見学しました。子連れで来ているお母さんやおじいちゃん・おばあちゃん世代の人もいました。昼に仕事をした後の勉強ですが、皆さんの眼差しが心に残りました。また、生活に必要な文章をみんなで大きな声で朗読していたのが印象的でした。



文章をみんなで朗読している様子



単語を学習している様子



日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所での様子（右下がランブータン）



チュブタトラウ寺子屋での様子



みんなで折り紙！



アクションゲームで仲良くなった女の子



チュブタトラウ寺子屋の子供たちと

六日目（8月1日（金））

過去のスタツアで訪問できなかったアンコール小児病院を初めて訪問する貴重な機会が与えられました。離乳食の作り方や歯の磨き方を教えていたり、文字が読めない人たちのために絵で説明するボードを設置していたりと、多くの工夫を見ることができました。また、多くの方々からの寄付金によってこの病院が成り立っていることも知り、感銘を受けました。



アンコール小児病院の外観



離乳食作りの場面



寄付金のツリー

その後、バイヨン寺院とアンコール・ワットを訪問し、広大な敷地に今から 900 年も前にこんなに大きな建造物を建てた人々の力強さと信仰深さを感じました。ただ自然（災害）の影響を受けたり、内戦時には武器として石が使用されたりしたために、どちらの寺院も修復作業が続けられています。その作業に、国境を超えて日本の企業や大学が協力していることを知り、感動しました。一方で、世界情勢によってこれまで世界遺産の保全や存続が危ぶまれてきたこともあり、世界遺産と平和のつながりについても考える機会になりました。



バイヨン
寺院へ向
かう道



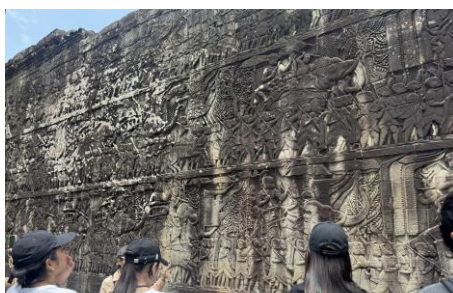
修復され
た石像の
顔



バイヨン
寺院の入
り口



修復作業
をする人
たちとク
レーン車



クメール
王朝時の
歴史が刻
まれたレ
リーフ



ガイドの
マカラさ
んによる
石の積み
上げ方につ
いての説
明

カンボジアでの最後の夕食は、カンボジアの民族楽器の演奏を聴いたり、伝統舞踊アプサラダンスを鑑賞したりしながらいただきました。素敵な音色に感動しました！



夕食時の演奏と舞踊の様子



お腹も心も満たされました！
(ガイドのパナーさんと)

七日目、八日目（8月2日（土）、3日（日））

最終日はラップアップミーティングです。模造紙にカンボジアでの5日間の体験記と感想を書きましたが、とても濃密な日々だったことを実感しました。みんなの発表を聞いて、初日のプレゼンから変化したことや、同じ体験をしても自分では気づかなかったことを教えられ、「なるほど！」と何度も思われました。個人旅行では味わえない貴重な体験をしたことを感慨深く思いました。

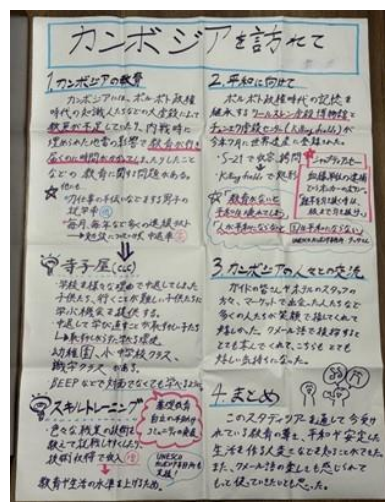
帰りはシェムリアップ空港からホーチミン空港を経由して成田空港に向かいました。参加者全員が大きな怪我や病気をすることなく、元気に楽しく旅程を終えることができて本当に良かったと思いました。

さいごに

40 ページにわたって書き込まれた記録ノートを読み返しながら、スタツアに参加する前と後では見える世界が違うことを改めて感じました。

戦後80年の今年、「平和」について考えながら探究活動に取り組んでいます。自身のテーマの中にカンボジアでの平和の取り組みとカンボジアの皆さんの笑顔が加わり、これからどのようにして世界の平和を築いていく必要があるのかを考えさせられました。

最後になりましたが、今回のスタツア実施に際してご尽力くださった日本ユネスコ協会連盟の皆さん、かめのり財団の皆さん、高木団長、全ての関係者の皆さん、そして、このスタツアに参加した9人の仲間から感謝します。本当にありがとうございました！



発表時に使用したポスター



シェムリアップ空港でマカラさんと



みんなでクバチ・トゥルーイ（今まさに開こうとしているつばみを表す）ポーズ！